

汗じみ防止（軽減）加工の評価方法の紹介について

汗じみ防止加工には様々な加工方法がありますが、汗じみを目立ちにくくする加工のことを言います。汗じみ防止（軽減）加工が施された生地は、生地裏面は汗（水）を吸収しますが、表面は汗（水）を吸収せず、「汗じみ」が目立ちにくくなっています。ボーケンでは、「汗じみ評価（滴下法）試験方法（ボーケン法）」において、汗じみ防止加工を評価します。



加工生地では表面に「汗じみ」が目立ちにくい

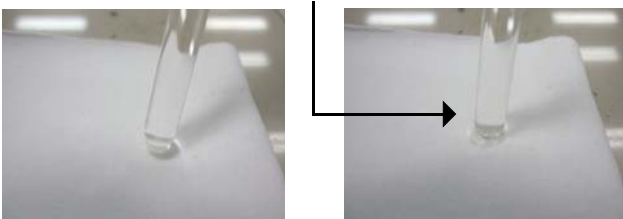
汗じみ評価（滴下法）試験方法（ボーケン法）では、「汗じみ評価」と「吸水評価（過度のはっ水加工の有無を評価）」の両方を実施します。

汗じみ評価

- ① 生地裏面に1cm上から水（イオン交換水）を1滴（約0.04mL）滴下する。



- ② 滴下後、60秒経過しても完全に吸水しない場合、ガラス棒でよくしみ込ませる。
(押さえつけるように吸水させる)



- ③ 判定は、完全に吸水した直後（吸水評価判定見本のDに相当）に、表面・裏面それぞれの水滴下部分と滴下していない部分の変退色を、変退色用グレースケールにて級数判定する。生地の下側に白台紙と黒台紙を入れ、級数の低い結果で表す。

試験結果の
記載例

変退色（級）
表面／裏面 4-5/2

吸水評価

（過度のはっ水加工の有無を評価）

- ① 生地裏面に1cm上から水（イオン交換水）を1滴（約0.04mL）滴下する。

- ② 判定は、水滴下後、裏面の吸水程度を60秒後にAATCC TM118 [耐炭化水素試験]（はっ油性試験）の判定見本を用いて、吸水性なし（A）か否かを判定する。

判定見本



吸水性あり

例



「吸水性なし」



「吸水性あり」

試験結果の
記載例

裏面 吸水性あり